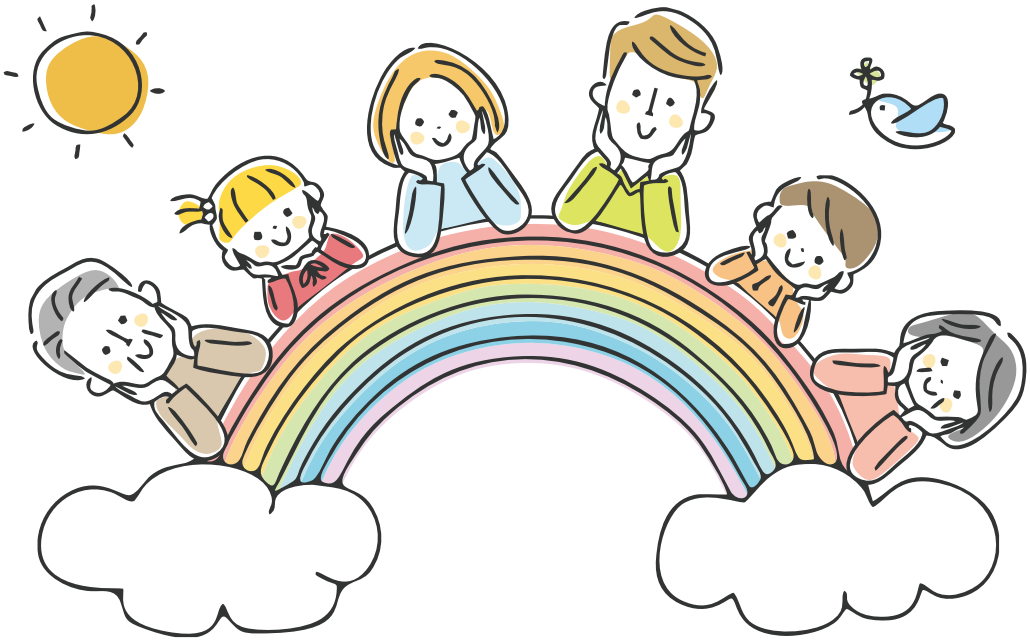
みらいへかけるコープ
TOTTORI COOP

2030年ビジョンの実現に向けて



鳥取県生協　第10次中期方針

（2024年～2026年）

鳥取県生協では、創立70周年を迎えた2020年に、「鳥取県生協の2030年ビジョン」を策定し、「“ともに生きる”～笑顔と思いやりでつながり夢があふれる「くらしの協同」を実現します～」をテーマとして、10年後のありたい姿を掲げました。

その第一期である2021～2023年は第９次方針として、「未来へかけるコープづくり」をコンセプトに2030年ビジョンに掲げた「くらしの協同」を実現するための基盤を構築していく３年間と位置付けて取り組みをすすめてきました。

それらの到達点や今後想定される情勢・環境変化などを踏まえ、第二期にあたる2024年～2026年の３年間を「継承・発展・改革・そして挑戦」として位置付け、第10次中期方針を策定しました。

鳥取県生活協同組合

第9次中期方針（2021～2023年度）の取り組み

【テーマ】「未来へかけるコープづくり」

～「くらしの協同」を実現するための基盤づくりの3年間～

01 全ての世代が安心できるくらしづくりの取り組み

多様な世帯に選ばれる魅力ある共同購入事業を目指して、コープアプリの開発やｅふれんず利用者の拡大、あんしんカバーサービスの導入、フルフォトバージョン注文書の運用などをすすめました。全市町村と締結している子育て連携協定に基づくはじめてばこやコープ赤ちゃんサポートクラブなどを中心に子育て層へのお役立ちを広げました。今週の逸品おすすめ運動を利用普及活動の中心に据え組合員活動とも連携しながら生協商品の価値を学び広げました。供給高はコロナ禍で急激に伸長した2020年度実績とほぼ同水準を維持しています。一方で利用世帯率は15．1％（2023年度平均利用人数33，403世帯）で指標の16％には未到達です。

物流機能の品質向上や効率化に向けた施策として、保冷箱や集品・積込み方法の変更とシステム化をすすめ、個別配達手数料の見直しも行い収益構造の改善につなげました。

夕食宅配はやわらか食や祝日配送を新たにスタートさせ、また行政と連携した見守り活動としての役割も年々高まりました。一日あたり利用食数は1，800食（2023年度平均）で指標の2，000食には未到達です。

共済と団体保険の一体推進は年々進化し総合的な幅広い保障提案につながっています。学生総合共済の取り扱いもスタートしました。0歳児加入や早期加入、満期対応などの強化とともに、タブレット加入やどこでも加入などの推進ツールの運用がすすみました。コープ共済の保有件数は38，050件（2023年上期終了時点）で指標の38，000件を超過しました。

広報活動では、コープふぁんぷら月間を中心とする組織全体での取り組みの他、ホームページの大幅改修（スマホ対応）や、YouTube、インスタグラム、LINE広告などの運用を新たにはじめました。ガイナーレ鳥取やチアフル鳥取への協賛もはじめました。2023年11月度の組合員世帯数は67，961世帯（指標70，000 世帯）、県内世帯加入率は30．6％（指標31％）で、それぞれ未到達となっています。

子育てサポート

夕食宅配

02 持続可能な社会に向けた取り組み

ネットワークを大切にした地域課題解決に向けては、行政訪問を継続実施するとともに、米子市永江地区との連携活動やJA鳥取中央との包括協定に基づく買い物支援の取組み、フードサポート・フードドライブ事業、ふなおか共生の里、コープ虹の森活動などをすすめました。

また、虹のかけはし基金や自然災害緊急募金、鳥取県ユニセフ協会と連携した取り組みなどの他、ロシアによるウクライナ侵攻に関する声明文発出及び緊急募金、核兵器禁止条約署名活動、被爆ピアノコンサートなど様々な平和を目指す取り組みも展開しました。くらし助け合いの会では募金導入など新たな制度のもとで活動しています。

SDGｓエシカルチャレンジやエシカルフェスタには年々参加者が増加し関心が高まっています。福祉政策２０１８をブラッシュアップした形で、「鳥取県生協のＳＤＧｓアジェンダ」を策定し２０３０年に向けた行動指針を示しました。

行政訪問（鳥取市）

エシカルフェスタ

鳥取県生協の SDGsアジェンダ

スローガン「みんなで幸せにくらせる社会を目指して」のもと、
「福 祉」「エシカル」「環 境」「平 和」をキーワードに具体的なアクションプランとして4つの行動指針で構成しています。
また、共通の基本概念として「パートナーシップで目標を達成しよう」を掲げています。

パートナーシップで目標を達成しよう

03 誰もが活き活きと輝く鳥取県生協づくりの取り組み

組合員活動では、コロナ禍で大きく活動が制限され組合員参加が激減しましたが、オンラインの活用といった新たな活動方法が生まれています。エリア会と組合員理事との関係性や役割を整理して新たな体制をスタートさせました。エリア会とコープ会コープくらぶの交流機会を増やす取り組みもはじまっています。

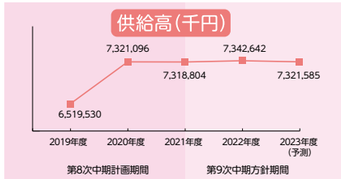
職員の人材育成制度マニュアルを現状の運用に合わせた内容にあらためて整理しました。生協学校や実践事例発表交流会、他生協交流、産地研修などの他、アイデア提案制度をきっかけとした「生協キッズ職場見学会」をはじめて開催しました。内部統制基本方針に沿って、新型コロナウイルス感染症に関するリスク対応などを中心にすすめました。

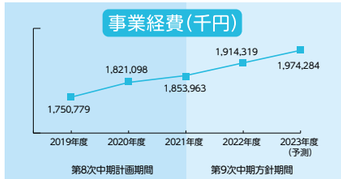
電気事業に関する検討をすすめ、2023年には、㈱とっとりみらい電力への出資を行いました。情勢を見極めつつ今後に向けての協議を継続しています。

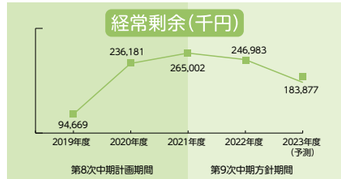
経常剰余率は2．24％（2023年上期終了時点での年度末予測）で指標の２％以上を超過しているものの、コロナ禍以降の急激な供給高伸長の反動リスクとこの間の急激な事業経費の増加は今後に向けてシビアに向き合わなければいけません。

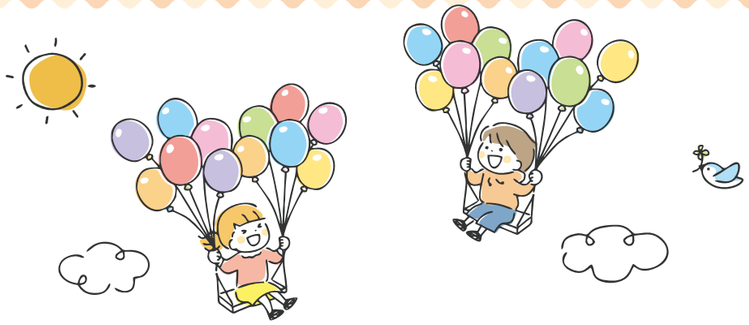
オンラインを活用した組合員活動

せいきょうキッズ職場見学会









2030年ビジョンの 3つの柱に基づく取り組み方針

第10次中期方針の基調とテーマ　継承・発展・改革・そして挑戦

2030年ビジョン実現にむけた2021～2023年の3年間の第9次中期方針では、新型コロナウイルス感染症の広がりや相次ぐ自然災害、不安定な国際情勢を受けての円安、物価高・資源高など、予測困難な変化が過去に経験したことのない水準・スピードで私たちのくらしや事業経営に大きな影響を及ぼしました。

そんな中で、鳥取県生協では、コロナ禍での急激な需要の高まりも背景に組合員へのお役立ちを大きく広げることができました。2022年にはSDGsアジェンダを策定し2030年に向けた行動指針をもとにその取り組みを強めることができました。コロナ禍により活動が制限される中でも、これまでにない創意工夫を凝らしつつ、2030年ビジョンで掲げる「ともに生きる」くらしの協同づくりの実践を積み重ねてきました。そのような成果をあらためて共有し、今後に向けて『継承』し、さらに『発展』させていきます。

一方で、2030年ビジョン実現に向けた「基盤づくり」は、まだまだ道半ばと言わざるをえません。人口減少や少子高齢化、世帯数の減少、市場規模の縮小、働き手の減少、競合の激化などはよりいっそう加速度を増しています。それらの変化に対応すべく、鳥取県生協がすすめる事業の総合力をさらに高め、組合員参加を広げていく取り組みが今こそ求められていますし、避けては通れない課題に対して不断に『改革』をすすめるとともに、未来に向けて『挑戦』し続けます。

ビジョン 1 VISION 1　全ての世代が安心できるくらしづくり

組合員のくらしと地域の「安心」につながる事業創造

● コロナ禍以降の供給高伸長の維持継続と収益構造改革

中核事業である共同購入事業や夕食宅配事業は、コロナ禍での急激な利用伸張があったものの、今後さらに加速する人口・社会構造・地域社会の変化やデジタル化、急激な事業経費の増加などを踏まえ、いまだかつてない厳しい環境の中での事業経営となることを認識し、組合員の安心や喜びをさらに高め、地域社会を支え続けるためのあらゆる施策を推進します。供給高は、コロナ禍を契機に大幅伸長した2020年度以降の水準を維持し続けるとともに、とくに物流機能の業務効率化をはじめとする生産性向上に向けた取り組みを積み上げて収益構造改革を実行します。

● 「生協だからこその商品」の深掘り

共済・保険事業も含め「生協だからこその商品」の意義や価値を深掘りし、くらしの中に生協がなくてはならない存在を目指して、組合員と職員で一緒に学びながら発展させていきます。

● 「コープふぁんプラス」の取り組み

誰もが安心してくらせる地域を創るために、多様なチャンネルを活しながら様々なニーズに対応可能な広報活動を展開し、鳥取県生協の社会的認知度を向上させ、組合員の仲間の輪をさらに広げます。

ビジョン 2 VISION 2　持続可能な社会づくり

SDGs アジェンダの実現

● パートナーシップを大切にしたSDGs

持続可能でよりよいくらしの大前提となる平和を大きく脅かす事象が世界中で相次ぎ、国際情勢の不安定化が、コロナ禍と相まって人々のくらしをよりいっそう苦しいものとしています。

そんな中で、SDGsの重要性については年々その認知が広がり、様々な社会的課題、地域課題の解決に向けて、鳥取県生協への期待も高まっています。SDGsアジェンダの基軸である「福祉」「エシカル」「環境」「平和」の視点で、電気事業などの新たな事業への挑戦や、様々な団体とのパートナーシップを大切にした取り組みをすすめます。

ビジョン 3 VISION 3　誰もが活き活きと輝く鳥取県生協づくり

未来へかける鳥取県生協の組織づくり

● 組合員参加の広がりと体制構築

組合員活動では、共働き世帯の増加やコロナ禍などにより組合員参加が激減した一方で、オンラインなどの多様な参加のあり方や参加でつくるつながりの大切さを再確認することができました。まずはコロナ禍で縮小した集いの場や組合員参加を広げることと併せて、多様な参加を支える多様な担い手の育成と配置、よりよい体制構築をすすめます。

● 自分で考え抜いて新たな挑戦ができる職場

コロナ禍においては、職員も感染リスクと日々向き合いながら組合員のくらしを支え続けました。今後いっそう厳しくなる事業環境だからこそ、職員一人一人が何より健康で、みんなで励まし合いながら、やりがいを持って自身で考え抜いて新たな挑戦ができる職場をつくります。

● 将来を見据えた人財づくり

職員の年齢構成に大きな偏りがある現状を踏まえ、将来を見据えた人財育成・採用・登用、ジョブローテーションを積極的にすすめます。

● リスク対策強化と事業連帯の深化

事業の永続的継続の観点から、日本生協連やコープCSネットなどと連携しながら、自然災害やサイバー攻撃などのリスク対策を強化するとともに、事業連合の将来的なさらなる広域連帯のあり方について検討します。

2026年に向けた主な指標

01 **供給高は73.5億円を目指します。(共同購入:70.9億円、夕食宅配:2.6億円)**
共同購入24～26年:100.0%伸長継続、夕食宅配同:101.5%伸長継続

02 **共同購入事業を利用する世帯数34,000世帯(1企画平均)を目指します。**
24～26年:100.5%伸長継続

03 **コープ共済(新あいあい・火災共済含む)の保有件数43,000件を目指します。**
24～26年:102.5～103.5%伸長継続

04 **組合員世帯数73,000世帯、鳥取県内世帯加入率33%を目指します。**
各年純増1,700～1,800世帯　24～26年:102.0～103.0%伸長継続

05 **事業活動による温室効果ガス(CO_2)排出量を2013年度比で30%削減します。**

06 **経常剰余率2%以上を目指します。**

※上記の指標を2026年の到達イメージとして共有しつつ、各年度の計画数値については、各年度方針での具体化を踏まえた上で決定します。

みんなの想いをかたちに ～第10次中期方針ができるまで～

策定にあたっては、組合員および職員へのアンケート(2023年7月実施)なども参考に、第10次中期方針検討委員会(2023年7月より計5回開催)、職員選抜ワーキンググループ(2023年8月より計3回開催)にて議論を重ねました。

ビジョン1の声　全ての世代が安心できるくらしづくり

「生協だからこそ」は、商品のみならず、組合員同士のつながりやサポートにも広がってほしいです。

作り手の想いをつなぎ、生協だからこその商品普及。つくり手の想いをしっかり伝えたい。

メディアや新聞などで生協がますます注目されている今、地域の人々へPRするチャンス!　生協の存在を発揮する時です。

コロナ禍において宅配分野では他の企業もどんどん参入してきており、デジタル分野では更なる成長をしないとこの先、競合他店との差別化や利便性含めて危機感を感じます。

人と人とのつながりが実感できることで注文・利用の楽しさやホッとできる安心感が得られ、継続利用につながると思います。

職員として当たり前に使っている言葉は組合員さんにとって分かりずらいこともある事を再確認し、色々な切り口で新しいことにチャレンジしていきたい。

コープ共済は、高齢者対応での保障の充実や、若年層対応による一生涯の保証の提案など、それぞれのくらしにあった切れ間の無い提案や、ライフプランアドバイザーの推進などが出来れば。

組合員と職員が一緒になって学び、輪を広げる活動が必要。加入人数は増えているが、利用人数が減っている。

ビジョン2の声　持続可能な社会づくり

生協の事業・活動を行う上で他団体とのネットワークを広げ事業を展開していくことも必要。

“エシカル”を訴え続ける事で組合員の意識が少しづつ変わってきていると感じます。

「福祉」「エシカル」「環境」「平和」をキーワードに具体化されたSDGsアジェンダで目標がより明確になり、取り組みが実感できるようになると思う。その充実に向けた取り組みに期待します。

災害など世の中の動きは目に見えて力を弱めていると感じる。ご近所同士でも顔を知らないこともあり、生協の役割はこれからもっと必要になってくると思います。

核兵器廃絶と世界の平和を願った取り組みは決して歩みを止めてはならないと願っています。子どもたちの未来の為にも続けましょう。

環境保全に関心を持つことによって、環境を守り続けることに出来るだけ協力していこうと思います。

配送コースの改善や会議などのオンライン併用など、環境面だけでなく、業務効率を上げる面でも検討が必要。

エシカル、サステナブルと商品を関連づけた訴求。商品利用が社会貢献活動につながるという意識を作っていくことが大切。

組合員からのリサイクルは定着してきていると感じるが、SDGsにどのくらい貢献できているのかがわからない。

電気事業をどのように進めていくのか楽しみです。生協の代表的な環境の取り組みとなれたらと思っています。

ビジョン3の声　誰もが活き活きと輝く鳥取県生協づくり

配達員さんとのやりとりがあり、組合員として、大切にしてもらっていると感じる。

今年入協したかわいい職員、不慣れな仕事、運転、ずいぶん成長しました。みんなで見守っている感がします。

活き活きと輝く鳥取県生協づくりとしては、まずは、元気な組織であること、様々な課題にチャレンジしていくためにも、各部同士が、お互い良くするために考え、連携をもっと図っていければ良いと思います。

組合員活動に参加する人は同じ人が多い。近所で気軽に出かけられる場所があれば今まで参加していなかった人も参加されるかも。

日頃から職員同志がお互いに尊重し、讃え、声を掛け合える雰囲気作りが大切だと思います。些細な会話の中から、新たな事業のヒントが出てくるのではと思います。

商品を購入するだけでなく、学習会や機関紙などで学ぶ機会があり、ありがたいです。どんどん参加したいと思っています。

職員の広島での平和学習をはじめ、たくさんの学びの場を設けておられると思います。継続していくことは大切だと思います。

孤独な方が増えているので、声かけ、集まっておしゃべりすること、助け合いがますます重要になってくると思います。

みらいへかけるコープ
TOTTORI COOP

2030年ビジョン実現に向けて

鳥取県生協　第10次中期方針
（2024～2026年）

発行日…2024年3月　　発行…鳥取県生活協同組合　総合企画室